

9時30分から 新盆施餓鬼
10時から 法話
10時45分から 先祖施餓鬼 11時15分頃終了

予告 秋彼岸法要 9月21日 午前11時～

彼岸法要後

ぴあのと チェロト ヴァイオリン

春のお彼岸はお寺らしく巡教師さんの法話でしたから、秋はにぎやかに！（春の巡教師さんにもにぎやかでしたが）。昨秋からピアノを本堂に置きっぱなしにしてありますが、わずか数メートルを移動させるのが大変です。お楽しみに！

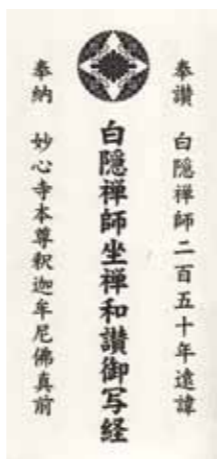
7月	14日(日) / 27日(土) / 28日(日)
8月	お盆行事のため、一ヶ月休会
9月	8日(日) / 21日(土) / 22日(日)
10月	13日(日) / 26日(土)
11月	10日(日) / 24日(日)
12月	8日(日) / 21日(土) / 22日(日)

【令和元年下半年開催日】

(原則として第二日曜日・第四土曜日・第四日曜日です)

左記日程の午後1時半から4時半まで本堂で写経ができます。都合の良い時間に来て、ご自分のペースで写経して、お好きな時間にお帰りください。ただし、初めての時はなるべく一時半にご参集ください。もちろん、檀家さん以外でも参加できます。お友だちを誘ってお越しください

あつまれ！
写経の日程



編集後記

〇ついに、ガラパゴス携帯からスマートフォンに乗りかえました。私より二十歳ほど年長の某氏がスマートフォンになったので、それを見て観念したという次第です。〇毎日出勤するわけではありません。だから、たまの外出にそれほど高機能なものを持ち歩く必要はないと思っていました。でも、交通機関の「乗り換え案内」などはスマホの方が便利です。〇便利は便利なのですが、移動することからはじまって、食べる、泊まるまで、すべてをインターネットの情報に左右されたくはありません。〇同じ様なこと言ったらおそれ多いけど、裏千家の千宗室家元が次のように書いておられます。JR東海の広報誌『ひととき』5月号から引用します。京都のお住まいから散歩がてらに立ち寄れる居酒屋を発見した時の様子です。「最初は飛び込みで入った。正解だった。私はインターネットなどの情報は見ない。偉そうな書き方と叱られるかもしれないが、たいていは自分の勘に頼る。外観を眺め、気配に耳を傾ける。度胸がついたら深呼吸する。そうして戸を開ける。今も好んで足を向ける数軒の酒場とはそのように縁ができた」と。家元お気に入りの居酒屋ってどんな店だろう。行ってみたいと思うけれど、当然のことながらエッセイ中に店の実名はない。〇裏千家の本拠地である「今日庵」から近くて衣棚通りへんだという。インターネットに左右されたいと言いつつながら節操がないことに、ネットの地図で探してみれば、たぶんNという店だろうか。いつか行ってみよう。その食レポは、いずれ。(博芳記)

不連続シリーズ



つけた！

今年のお盆の塔婆のことは

街かどに禅を探し、現代に仏教を見つける

維時 令和元年 以百味安孟蘭盆中

「百」という漢字をみるとなんだか、豊かな気分になるのは、私だけでしょうか。四字熟語でいえば、「百花繚乱」なんていう言葉があります。百より千の方がはなやかそうなのに、「千花繚乱」とはいはない。あるいは、今の若い人は、「誰、それ？」というかもしれないけれど、山口百恵なんていうアイドルもいたな。というわけで、豊かな気分にしてくれる「百」という漢字を、『孟蘭盆経』のなかにみつけました。『孟蘭盆経』は、釈尊・十大弟子のひとり、目連尊者が餓鬼道に苦しむ母を救う方法を説いた経本で、夏のお盆のよりどころとなるお経です。つまり、餓鬼道におちた母親を救うために、釈尊は七月十五日に僧へ供養することを目連に勧めます。僧のもともとの意味は僧伽（サンガ）、出家者の集団のことですから、個人的にひとりひとりの出家者に供養したのではなくて、組織に供養したというイメージでしょうか。でも、なぜ、七月十五日なのか。その日は、三か月続い

た修行期間があける日です。ひとところにとどまって、きびしい毎日を過ごした修行者は疲労しています。疲労した身体を回復させるために、「百味を以て飲食し、孟蘭盆中に安す」と『孟蘭盆経』は教えてくれます。出てきました。気分を豊かにしてくれる「百」の字です。「百味」といっても、百種類の食品という意味ではなくて、さまざまな馳走という意味でしょう。そこで、「以百味飲食、安孟蘭盆中」の一節を超訳すれば、「いろいろな料理を、清潔なお盆にのせて召しあがれ」とでもなるでしょうか。お経のなかに、「百味」という言葉をみつけた時、これまでとは異なる印象で夏のお盆をとらえる事ができました。お盆は疲れた身心を解消するための休息期間ではないか。今日的にいえば、不規則になりがちな食事を規則正しくなおして、お寺へ行って、お盆の法要に参列し、来し方行く末を思う。古代インド語で書かれたお盆のマニユアルを、千五百年ほど前に漢字に訳した中国の訳経僧は、「百味」の二字へ、そんな願いをひそましたのではないのでしょうか。さて、八月一日から三日まで例年とおり、お盆の塔婆供養の受付をします。おそろく、おおくの人が「塔婆は、毎年同じことばが書かれているのだろう」と思っています。か。そう、思われるのも本意ではないから、裏面は毎年ちがう文句をかいています。今年「百味を以て孟蘭盆中を安す」です。「疲れていたらお休みなさい」。そんな意味の塔婆です。